

みんなで絵本やクッキングを通して、 子どもに関する悩みを主体的に考えてみよう！

団体名 ● Solving Activity For Kids

代表者名 ● 松田佳夕（人間科学部こども学科1年）

1. はじめに(背景・目的・目標)

こども学科のメンバーで Solving Activity For Kids を立ち上げた。子ども学を学ぶ際に保護者の声や保育者の声を聞き、課題と感じていることを一緒に解決したいという思いが強かった。視覚障害のある子どもたちのための絵本を作ってみてはどうか、食物アレルギーのある子どもたちのために除去食を勉強してはどうかといろいろと考えた。

2. 活動内容

(1) 保育施設(A園)見学と乳児との遊び

7月と11月の2回、A園を訪問した。7月は、乳児がどのような場所でどんなおもちゃで遊んでいるのか、保育者が課題と感じていることは何かなどを観察調査した。その結果、保育者が手作りおもちゃを作る時間が限られており、学生の手作りおもちゃを楽しむにしていることがわかった。

11月には、0歳児クラスにパペットと布絵本の二つのおもちゃを持参した。フェルトや布など柔らかい素材を使用した。1、2歳児クラスでは0歳児クラス同様パペットと布絵本のほかに紙皿シアター、カードシアターも行った。布素材のものに加え、画用紙など異なる素材を取り入れた。3年生の手作り教材を見て、1年生はとても学びとなった。



持参した学生の手づくりおもちゃ

(1) 保育施設(B園)見学

8月には、B園を訪問した。B園を訪問したのは、特別な配慮が必要な子どもがどのようなおもちゃで遊んでいるのか、保育者や保護者は、どのような悩みを抱えているのかを知りたかったからである。園の環境を見せていただき、子どもの遊び場の工夫に驚いた。



特別な配慮が必要な子どもたちのための遊び場の工夫

またB園の先生方から、特別な配慮を必要とする子どもたちの現状についてのお話や「保護者の悩みに対する解決は難しい」などのお話を聞かせていただいた。自分たちができることがわからなくなり不安になったが、2年生の訪問のまとめを共有して、1年生は学ぶことができた。

3. 活動の成果と今後の課題

地域の保育施設2園の見学や乳児との遊びにより、おもちゃづくりや特別な配慮をもつ子どもの遊び環境により興味をもつことができた。

この取り組みの経験を生かして保育者や保護者と意見交換などをして地域の課題解決に取り組んでいけるように学習していきたい。